

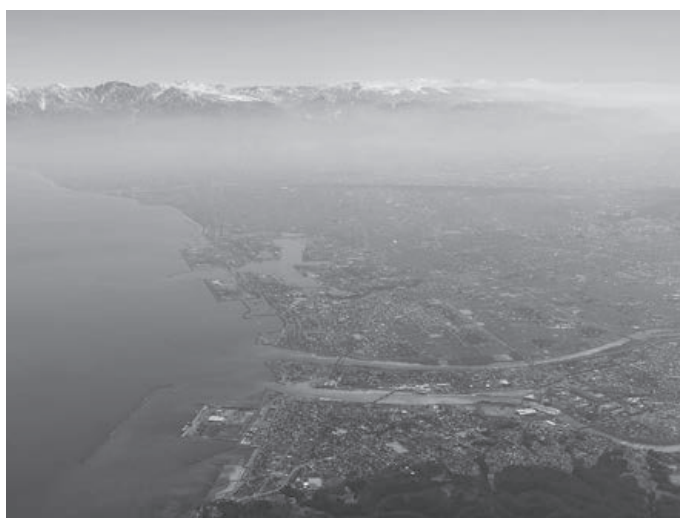
伏木富山港

富山県土木部港湾課

〒930-8501 富山県富山市新総曲輪1-7

☎076-431-4111（代表）

URL：www.pref.toyama.jp/cms_sec/1504/index.html.



国土交通省北陸地方整備局提供

1. 概況

伏木富山港は、日本列島のほぼ中央部の日本海側に位置し、伏木、新湊、富山地区の3地区から構成され、北西に位置する能登半島により風や波の影響を受けにくく、港口まで海底峡谷が連なることから、天然の良港として古くから要港として栄えてきた。

昭和61年（1986年）6月には、日本海側では2番目となる特定重要港湾の指定（平成23年（2011年）4月港湾法改正により、国際拠点港湾に指定）を受け、平成23年11月には、日本海側の「総合的拠点港」として選定された。

近年、環日本海諸国をはじめとする東アジアの経済発展、また貨物のコンテナ化に伴い、韓国や中国、ロシアを結ぶ外貿コンテナの取扱いは年々増加傾向にある。こうした中、平成27年の北陸新幹線開業により交通アクセスが向上し、首都圏との人的交流に加えて、企業の新規立地、また物流面での優位性が高まっており、この機会を好機と捉えさらなる港湾物流の活性化に取り組むこととしている。

〈伏木地区〉

伏木港は明治32年（1899年）7月13日に、自由に外国と貿易のできる開港場に指定され、令和元年（2019年）に開港120年を迎えた。この間、藤井能三をはじめとする偉大な先人の英知と努力により、富山県、さらには北陸地方の経済発展に大きく貢献してきた。

1990年（平成2年）1月には内港浚渫からの脱却や船舶の大型化への対応などを目的として伏木外港の建設に着手し、平成10年（1998年）6月に万葉ふ頭、平成18年（2006年）3月に国際物流ターミナルの供用を開始した。

さらに伏木外港における取扱貨物の物流機能の強化、高速交通体系との一体化による活性化を目指し平成21年（2009年）9月に伏木万葉大橋が完成する等、臨港道路伏木外港1号線の整備を進めており、国道8号などの幹線道路へのアクセスが容易になることにより、さらなる産業の発展や地域経済の振興に寄与することが期待される。

このほか、近年では大型外航クルーズ客船の寄港に対応した防舷材や係船柱などの施設整備や大規模地震の発生時においても円滑な荷役が可能となる耐震強化岸壁を整備するなど、さらなる港湾機能の強化を進めている。

〈富山地区〉

神通川の河口港である富山港は、古来東岩瀬港と称してい

たが、元和7年（1621年）加賀藩の指定積卸港とされてから、日本海の要港として繁栄したと伝えられている。

大正年間に神通川改修工事に合わせ河道を港と分離したことにより埋没は防止され、昭和3年（1928年）には内務省の指定港湾になるとともに、富山市都市計画事業の一環として富岩運河を開削し、さらに昭和15年（1940年）東岩瀬土地区画整理事業により工場地帯の造成が進められた。

昭和26年（1951年）に重要港湾に指定されて以降、港湾施設の整備に加え、背後地工場の生産拡充及び周辺適地への工場誘致と相まって物流における重要な役割を担っている。

1万5千トン級船舶4隻、1万トン級船舶1隻が係留できる岸壁を有し、上屋、貯木場、荷役機械等の施設が整備されており、ロシアとの国際RORO船の定期航路や2万トン級クルーズ客船の寄港が可能となっている。

現在、富山地区では大規模災害時への対応として、2号岸壁の耐震強化岸壁を整備しており、対岸諸国との貿易や近隣の産業を支える物流などの機能を担う重要な港湾として港湾機能の強化とともに、富岩運河と一体となった魅力あるウォーターフロントの形成を進め、賑わいづくり空間づくりを推進することとしている。

〈新湊地区〉

富山新港は新しい臨海工業地帯建設の基幹の流通拠点として計画され、昭和39年（1964年）に指定を受けた富山・高岡新産業都市の中央部に位置する。1.8kmの放生津潟を利用した掘込港湾であり、昭和36年（1961年）4月に着工し、7年の歳月を費やして昭和43年（1968年）4月に開港した。

本港の泊地、航路の浚渫土砂などによって造成された約430haの背後工業用地は臨海工業地帯となっている。

また帆船海王丸を公開している海王丸パークは県内有数の観光スポットとなっており、年間約100万人の来場者数があるほか、富山県新湊マリーナは拡張整備が完了し日本海側有数のマリーナ拠点施設となっている。

伏木富山港の中で唯一コンテナ貨物を取り扱っており、増加する貨物や大型化する船舶への対応を図るため、平成14年（2002年）に供用を開始した国際物流ターミナルの拡張や岸壁延伸を順次進めている。

平成30年（2018年）4月にはコンテナヤードの拡張工事が完了したほか、令和元年（2019年）6月にはコンテナ用岸壁の延伸工事の完了により、総延長が408mとなり、1万2千トン級（1,000TEU級）のコンテナ船の2隻同時接岸・同時荷役が

可能となった。

コンテナの取扱個数は平成14年(2002年)の国際物流ターミナル供用開始以降、太平洋側の三大都市圏の伸び率約1.5倍を上回る、約2倍(2020年時点)の伸びを記録しており、今後更なるコンテナ貨物の増加に向けて企業訪問や名古屋や東京での利

用促進セミナー等の場を活用して積極的なPRを行い、他港からの貨物シフトや新規貨物の掘り起しに努めていくこととしている。

さらに国際海上コンテナの拠点としてだけでなく、バルク貨物の効率的な荷役を図るため、水深14m岸壁の整備に取り組んでいる。

2. 港勢

入港船舶

トン数別 種別	合計		30,000総トン以上		10,000総トン以上 30,000総トン未満		6,000総トン以上 10,000総トン未満	
	隻数	総トン数	隻数	総トン数	隻数	総トン数	隻数	総トン数
外航商船	760	7,534,555	83	3,602,028	20	356,837	274	2,471,774
内航商船	865	2,176,494	3	150,426	5	105,203	6	39,528
自航 その他	1,498	64,093			1	13,950	1	8,100
合計	3,123	9,775,142	86	3,752,454	26	475,990	281	2,519,402

トン数別 種別	3,000総トン以上 6,000総トン未満		1,000総トン以上 3,000総トン未満		500総トン以上 1,000総トン未満		5総トン以上 500総トン未満	
	隻数	総トン数	隻数	総トン数	隻数	総トン数	隻数	総トン数
外航商船	127	575,617	256	528,299				
内航商船	393	1,527,132	48	110,481	124	104,090	286	139,634
自航 その他	3	15,908	3	5,713	7	4,544	1,483	15,878
合計	523	2,118,657	307	644,493	131	108,634	1,769	155,512

最大入港船舶のトン数 138,194 総トン(喫水9m)

海上出入貨物

品種 項目	合計		農水産品		林産品		鉱産品		金属機械工業品	
	トン	%	トン	%	トン	%	トン	%	トン	%
輸出	1,200,279	100.0	324	0.0			8,870	0.7	712,446	59.4
輸入	3,485,007	100.0	13,725	0.4	1,271,016	36.5	835,764	24	321,247	9.2
計	4,685,286	100.0	14,049	0.3	1,271,016	27.1	844,634	18.0	1,033,693	22.1
移出	124,953	100.0					3,022	2.4	6,226	5.0
移入	1,891,797	100.0	1,060	0.1	3,000	0.2	331,398	17.5	100,682	5.3
計	2,016,750	100.0	1,060	0.1	3,000	0.1	334,420	16.6	106,908	5.3
合計	6,702,036	100.0	15,109	0.2	1,274,016	19.0	1,179,054	17.6	1,140,601	17.0

品種 項目	化学工業品		軽工業品		雑工業品		特殊品		分類不能のもの	
	トン	%	トン	%	トン	%	トン	%	トン	%
輸出	172,171	14.3	84,369	7.0	32,155	2.7	189,944	15.8		
輸入	887,587	25.5	6,654	0.2	105,786	3.0	43,228	1.2		
計	1,059,758	22.6	91,023	1.9	137,941	2.9	233,172	5.0		
移出	64,337	51.5	37,410	29.9			13,958	11.2		
移入	1,438,000	76.0			1,450	0.1	16,207	0.9		
計	1,502,337	74.5	37,410	1.9	1,450	0.1	30,165	1.5		
合計	2,562,095	38.2	128,433	1.9	139,391	2.1	263,337	3.9		

太字は自動車航走船取扱貨物(外数)で、計及び合計に含まない

外貿コンテナ貨物取扱量

項目	フレートトン	TEU	
		実入り	空コン
輸出	408,994	22,933	13,191
輸入	643,737	32,441	4,046

乗降人員

	合計	乗込人員	上陸人員
外国航路			
内国航路	12,311	5,833	6,478
計	12,311	5,833	6,478